

水産食料品製造業における激突災害の死傷災害発生事例（2017年）

2017 年 発生 月	時間	死傷災害発生事例	年 齢	労 働 者 規 模
4	14～ 15	作業中に気分が悪くなり、トイレに向かう途中の廊下で気を失って倒れ、顔面を床に打ち、唇と歯を負傷した。	20	50 ～ 99
6	10～ 11	事務所と店舗間の外階段において、商品の送り状を事務所から店舗へ持っていくため階段を下りている時、雨で濡れていた階段で滑って落ちそうになったため、バランスを取ろうとして膝を捻った時に関節が外れそうになり、足を床につけることが出来なくなった。痛みがあったが、我慢して業務を続けていたが、痛みと腫れが酷くなった。	43	1～ 9
7	16～17	原料場において、屋外から屋内に冷凍された原料を送り流す作業を行っている際に、原料が入っていた空の袋の空気を抜くために重心をかけた際にバランスをくずし、鉄製のカゴの角に左側の脇腹を強打してしまい、負傷した。	62	100 ～ 299
9	16～ 17	工場1階の原料搬入口において、原料搬入作業が終わりフォークリフト操作の為、原料を搬入する所から約1.2m下の地面へジャンプしたところ着地に失敗し、右足首をひねった。	33	10 ～ 29
10	10～ 11	社員食堂の調理場にて、高さ85cmの冷凍庫の一番下に入っていた食材を取ろうと、手を伸ばしたがなかなか届かなかった。無理をして冷凍庫に体を押しつけながら取りあげたが、肋骨に痛みが生じた。レントゲンを撮った結果、骨折していた。	64	100 ～ 299
10	10～	当事者がX線で除去された製品の再処理を行っていたときに、再処理の製品が入ったコンテナ（幅38cm）を手に持ち、X線の横の道路（幅50cm）を通ろうとした。	53	100 ～

	11	その際、コンテナがX線に当たり、その反動でコンテナに胸部を勢いよくぶつけ、右肋骨にヒビが入った。		299
12	3~4	同社工場内において、同僚が運転する保冷車に製品を積み込むため、作業場のプラットフォームで被災者が待機中、当該保冷車がバックでプラットフォームに到着した。被災者が荷台に乗り込もうとして足を荷台にかけたとき、車が停止位置を再度直そうと前方に移動したため、危険を感じ、咄嗟に1m下の地面に着地した際、左足踵に体重がかかり骨折した。	70	50 ～ 99

出典： https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to : https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_09.html